



スレート葺き職人の技を学ぶ

豊里小・中学校(伊藤浩校長、児童生徒524人)の総合的な学習「地域を知る」は2月27日、豊里町出身の国選定保存技術保持者でスレート葺き職人の佐々木信平氏を講師に招いて開かれ、3年生58人が職人の技を学びました。

佐々木氏からスレートの歴史や産地の講話を受けた後は、五角形のコースター作りに挑戦。石を切る道具を使うと、簡単に石が切れることに驚きの声が上がりました。最後は紙やすりで磨きをかけ、作品を仕上げていました。

畑ってこうやって耕すんだね

よねやま保育園(穴戸栄子園長、園児39人)の「野菜畑づくり」は3月18日、同園庭にある畑で開かれ、園児たちは野菜作りの基礎となる土作りを学びました。

学校支援ボランティアの橋浦義一さんと大友孝一さんが、自前の耕運機で固くなった畑の土を耕す様子を園児たちは興味津々に観察。今後、耕した畑にはジャガイモ、サツマイモ、キュウリ、ミニトマト、ナスを植え、収穫した野菜は給食や焼き芋会、収穫祭の行事などで活用する予定です。



堤防一斉清掃で気分は清爽に

「夏川・迫川の堤防一斉清掃」(石越町河川愛護会主催、松浦耕治会長)は3月8日、同河川敷で実施され、地域住民約900人が参加しました。

堤防一斉清掃は、石越地区全戸参加による毎年恒例の奉仕作業。1年振りの堤防の清掃活動に参加者は真剣に取り組み、手際よくゴミの撤去や草木の焼却作業をしました。堤防は約3時間ですっかりきれいに。本年の堤防清掃も、けが人を出さず終えることができました。

親子クッキングで深める交流

南方元気っ子クラブ事業「親子クッキング」は2月22日、南方農村環境改善センターで開かれ、南方地区の児童生徒や保護者約30人が参加しました。

南方元気っ子クラブ事業は南方地区にある3つの小学校の3～6年生が交流し、自主性や協調性を養うことが目的。今年度最後の活動となった親子クッキングでは、みんなで協力しておにぎらずやいちご大福を作り、今年度の活動を映像で振り返りながら試食して交流を深めました。



つやま幼稚園15年の歴史に幕

認定こども園つやま杉の子こども園が4月から開園するため閉園となるつやま幼稚園(佐々木志麻園長、園児16人)で3月16日、閉園式が開かれました。

子どもの笑顔に包まれ、保護者や地域に支えられ、思い出が詰まったつやま幼稚園。自然豊かな環境で伸び伸びと遊び、たくさんの行事を経験して多くの子どもたちがつやま幼稚園から巣立っていきました。閉園式では元気に子どもたちが園歌を合唱し、3月31日に閉園を迎えました。

9 TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします



日本の伝統に触れたひととき

新田幼稚園(松ヶ根幸子園長、園児38人)の「ひな祭り会」は3月3日、同園の遊戯室で開かれ、園児たちが日本の行事と伝統を楽しみながら学びました。

7段飾りのひな人形が飾られた遊戯室に着物姿の園長が登場すると園児は大喜び。園児は、みんなでひな祭りの歌を合唱し、園長からひな祭りの由来を学んだり、お茶の作法を教わり、お茶会の雰囲気を感じたりし、日本の伝統に触れる貴重なひとときを過ごしました。

子どもたちの夢の活動を応援

「ピーターバン基金贈呈式」は3月16日、登米総合支所で開かれ、石巻商工信用組合登米支店(岩淵一憲支店長)から登米町子ども会育成会(米谷甚市会長)へ寄付金が手渡されました。

ピーターバン基金は、子ども会ゆめ活動支援事業の育成助成資金として、子どもたちが企画した夢のある活動を支援することに活用されます。米谷会長は「子どもの健全育成に役立てたい」と話していました。



山頂から監視して山火事防げ

東和町米川の蚕飼山山頂の監視所と車両での巡回による「山火事監視パトロール」が3月16日から5月10日まで実施されています。

春先は、入山者が多くなり、空気が乾燥して火災の発生する恐れも高まります。山火事監視業務は、山火事をはじめとする火災や不審火を早期に発見するため、合併前から東和町で継続している事業。監視員は被害が発生しないよう毎日交代で定点観測と林道パトロールを実施しています。

交通事故の無い地域づくりを

宝江地区の「交通死亡事故ゼロ3000日達成表彰式」は2月20日、浅水地区の「交通死亡事故ゼロ2000日達成表彰式」は3月9日、市役所中田庁舎で開かれ、市交通安全対策協議会と佐沼警察署から宝江コミュニティ運営協議会(田島幹雄会長)と浅水コミュニティ運営協議会(羽生進会長)へ褒状が贈られました。

両会長は「地域の皆さんと協力しながら、交通死亡事故ゼロを継続していきたい」と決意を新たにしていました。

